

## 第十三回気象文化大賞 受賞者（国内・アジア・太平洋）

一般財団法人 WNI 気象文化創造センターでは、国内・アジア太平洋地域における気象の減災・自助・共助、経済的利用、環境問題などをテーマとした実用・実践的な研究活動について表彰・助成しております。

本大賞では 2023 年 2 月 ～ 4 月にかけて公募し、選考委員会（東京大学 中須賀真一氏を選考委員長とする）による厳正かつ公平な審査のもと、助成先を決定いたしました。本大賞の結果を次に示します。

受賞者	所属機関	テーマ	助成額
瀧本家康	宇都宮大学 共同教育学部	対流圏の気温減率は本当に $0.65^{\circ}\text{C}/100\text{m}$ なのか -高等学校における探究的活動の開発-	85 万円
成田知巳	湘南工科大学 教授	落雷位置標定システムの受信周波数拡大による冬季雷の標定率向上に関する研究	100 万円
尾崎光紀	金沢大学 准教授	中間圏オゾン破壊を可視化する孤立陽子オーロラに対する複数イオン種による荷電粒子散乱効率評価	90 万円
伊藤優香	個人	ひこうき雲の観測と実験	80 万円
野々村善民	福井工業高等専門学校 教授	地球温暖化の影響に配慮した過去、現在と未来の確率降水量に関する研究	90 万円
吉田将司	サレジオ工業高等専門学校 准教授	IoT を活用した土壌水分量観測システムによる霧および霜の発生検知手法の検討	80 万円
山崎政彦	日本大学理工学部 准教授	革新的衛星技術実証 4 号機ロケットに搭載する地震先行現象検知 CubeSat のフライトモデルの開発	100 万円
福村佳美	筑波大学大学院 国際日本研究学位プログラム（博士後期課程）	本研究のねらいは、日本の市民社会の自主的な気候変動に関する熟議促進の要件を究明することである。そのために、熟議に必要な気候変動とその影響に関する科学的知見を一般市民に分かりやすく伝えるためのツールを開発する。	100 万円

岩崎博之	群馬大学共同教育学部 教授	この 70 年間に雷日数のメソスケール分布は変化したのか？	90 万円
佐藤真樹	黒部市美術館・魚津埋没林博物館実行委員会	写真からわかる大気の温度分布の研究 ーinfinity~mirage を用いた芸術と気象を融合した地域活動ー	100 万円
福谷陽	関東学院大学工学部 准教授	確率論的リアルタイム高潮・高波予測モデル構築のための基礎研究	90 万円
Hiroshi Okochi	Certified NPO Mount Fuji Research Station (MFRS)	Observations of Airborne Microplastics (AMPs) at the Summit of Mt. Fuji and Comparison with Observation data in the Asia-Pacific Region to deduce their transportation	300 万円
Javvaji Nava Krishna Chaitanya	Scient Labs 合同会社	Development of location based portable 5G enabled IoT EDGE devices to measure, monitor and manage environmental sensor data.	160 万円
Masashi KAMOGA WA	Natural Disaster Research Section, Global Center for Asian and Regional Research, University of Shizuoka	Hybrid probes of DC-HF electric-field and plasma measurement for more than 6U CubeSat and parasitic payload of small satellite observing atmospheric and space electricity: Development for the flight model in JAXA's Innovate Satellite Technology Demonstration-4	300 万円

また、次の応募者を気象文化大賞功労賞として表彰することに決定しました。

三浦和彦	認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会 理事長	旧富士山測候所を活用した山岳大気環境科学の研究活動	200 万円
------	---------------------------	---------------------------	--------